

# C-up ワールド

## 2003年6月号

### 2003年4月の山行記録 (追加)

**自主山行**  
**白毛門山**  
**4月19日**

**参加者**

田口浩昭 (L) ・ 横川秀樹 (SL) ・ 福田洋子  
計3名

**コースの核心**

残雪期の歩行訓練、雪庇の踏み抜き、雪崩などの危険予知し対処する。  
気象状況の悪化に伴う撤退など、的確な判断力を養う。

**報告者の独り言**

前夜都内を車で出発。土合駅で仮眠をして、5時起床。

土合駅6時頃出発、天気は、週末になると悪くなる癖がある。

今のところ曇り、土合橋手前を右に入ると雪がなく、広い駐車場になっていた。

夏道がところどころに出ている。腐った雪をときどき踏み抜き、雪の状態もあまり良くないようだ。みんな緊張しているのか、喉が渇く。

松ノ木沢ノ頭8時40分着、この付近からは、雪もかなりあるが、上を見ると雪が割れているのが見える。少し登るとなんと約20mぐらい雪が崩れて泥が見えている。

その上は、雪庇のようになっている。ここを登るのだが、岩と泥が混じり、笹は寝ているし、滑ったらどこに行くのでしょうか。

白毛門山頂10時10分着。曇りながらも、展望は良好でした。

その後、男二人組は、笠ヶ岳を目指し、10時20分に出発した。山頂に11時10分着。

避難小屋を偵察した。寝て二人、座って五人ぐら

い入れる小屋でした。

この時期の雪は、怖い。

それからもうひとつ、靴の中敷を忘れ、泣いていた人が一人いました。

あんな薄い物でも馬鹿にはできないですね。

報告者 田口 浩昭



**自主山行**  
**沢自主集中 (全体報告)**  
**4月26日~27日**

**コース・行程の概要**

26日、27日に渡って、丹沢水無川周辺の沢の自主を各パーティーに分かれ行った。

**参加者**

伊藤 (幸) ・ 福田 ・ 南谷 ・ 坂本 ・ 田口 ・ 山野 (昭) ・ 山野 (美) ・ 横川

計8名

**コース及びメンバー**

26日 水無川本谷・・・横川・山野 (昭) ・ 山野 (美) ・ 田口  
源次郎沢・・・伊藤・福田・南谷

27日 セドの沢・左俣・伊藤・福田・坂本・横川  
源次郎沢・・・田口・山野 (昭) ・ 山野 (美)

報告者 伊藤 (幸)



**自主山行**  
**沢自主集中 セドの沢、左俣**  
**4月27日**

**参加者**

伊藤(幸)・福田・坂本・横川

計4名

**感想**

伊藤—坂本、横川—福田とそれぞれに別れ、ザイルを組んで登り始めた。

セドの左俣は F5 の 13mの滝がメインになっているが、小滝が連続してあり、沢登りとして飽きがないと思う。ただ、岩が脆く、手で引っ張ると岩がボロっと落ちる状態だった。特にリード者は岩を押しながら登る工夫が必要でちょっと緊張感があった。

実は、前日の源次郎沢で私が滑って手を岩で切ってしまったので、各メンバーが慎重になっていたようである。

4月の沢は人も入っていない事もあり、岩は特に滑りやすくなっている事を肌で感じてしまいました。沢は初級や中級のレベルだけでは判断できない季節や天候、岩の質等で全然違う事を肌で感じました。

報告者 伊藤(幸)

△△△△△△△△△△△△△△△△

**自主山行**  
**沢自主集中 水無川本谷**  
**4月26日**

**参加者**

山野昭人・山野美香・田口浩昭・横川秀樹

計4名

**感想**

2 2期の4人、山野ペアと田口横川ペアの2パーティを組んで戸沢BCを出発。

最初の堰場は左から残置スリングを使ってA1で乗り越える。ゴーロをしばらく歩くと、F1だ。左

に鎖がついているので安心だが、登りきった後のどうということのないへつりでやや緊張する。

セドの沢との合流点に出て、ひと安心だが、今年初の沢登りとあって、まだ身体が沢に慣れていない感じがする。ただ、水無川本谷には滝に鎖があるところが多く、ウォーミングアップとしては良かったのかもしれない。

本谷のハイライトというF8は、左岸のルンゼから上がり、滝の落ち口の高さを少し越えたあたりでトラバースをして、滝の上部に降り立った。

古い堰場を越えると遡行は終了。あとはガレ場を登り、樹林帯の踏み後に出て塔ノ岳山頂に達した。ザイルを出したのは、2回。人気の沢ということだが、静かな沢登りを楽しめたと思う。下山は少々疲れた。

報告者 横川 秀樹

△△△△△△△△△△△△△△△△

**2003年5月の山行記録**

**自主山行**  
**白馬岳、小蓮華尾根**  
**5月2日(金) 発~5日(月)**

**参加者**

末木俊之・田口浩昭・山野昭人・山野美香・横川秀樹

計5名

**行程**

- 5/2 13時池袋発 18時猿倉着(駐車場で幕営)
- 5/3 猿倉~大雪溪~白馬岳~白馬尻(幕営)
- 5/4 白馬尻~小蓮華尾根~猿倉(駅前の民宿泊)
- 5/5 朝7時 白馬発 帰途へ

**山行のポイント**

残雪期の歩行。  
ルートファインディング。  
危険の予測と対処。

コメント

5月3日、朝3時に起床し4時半に猿倉を出発。大雪渓を登り11時半に白馬山頂に到着。主稜を登ってくるパーティーを見おろし興奮する。下山はシリセードで1時間。あっという間に白馬尻へ。幕営。

翌4日も4時半出発。小蓮華尾根からの初級バリエーションルートに挑戦。しかし、尾根に取り付く手前の急な雪壁で、パーティーが二手に分かれる。尾根上に出たらすぐ合流できると思ったが、藪につかまったのか、別れた2人はなかなか尾根上に抜けてこない。大声で呼んでも笛を吹いても返事がなく、滑落などの事故を心配する。しかし、もしやと思い、ビーコンを受信状態に切り替えると、数十メートルの近い範囲内で動いていることが確認できた。しかし、現れる気配はなく藪でかき消されるのか、声も聞こえない。迷ったあげく、別れた地点まで一旦戻ることに決める。そして、そこでようやく撤退してきた二人に出会うことができた。

このアクシデントで2時間近くをロスをしたが、まだ時間は9時なので、気を取り直して再スタートする。しかし、尾根上は雪が少ないため藪に阻まれなかなか進むことが出来ない。急斜面をトラバースしたりしながら、なんとか距離を稼いでいこうとするが、遅々として進まず、12時に撤退を決意。白馬尻のテントを片付け、猿倉まで下山。白馬尻近くまで戻り、素泊まり3500円の宿へ。一風呂浴び、ビールで乾杯。反省会と残念会を兼ねた楽しい飲み会で夜が更けていった。

報告者 横川 秀樹

△△△△△△△△△△△△△△△△

自主山行

燧ヶ岳越えスキー登山

5月10日(土)～11日(日)

参加者

岩本 一郎(L)・宮下 裕史・小松 清貴  
計3名

コース・行程の概略

5/10(土) 晴

大清水12:00-三平峠15:40長蔵小屋

5/11(日) 曇

長蔵小屋5:20-10:40燧ヶ岳(俎)

11:30-熊沢田代-広沢田代-13:30御池

コースの核心・ポイント

残雪期のスキーを使った登山  
燧ヶ岳のやや急な斜面にたいする対応

コメント

今回は3度目の山スキー(自主としては初)であったが、非常に学ぶところの多い山行であった。

[1日目] 大清水にバスで到着。周囲はまったく雪はない。スキーをザックにつけて、兼用靴で歩く。スキーをしょって歩くのは初めての経験であるが、こんなに重い物だとは。。。三平峠を超えると、風景が一転し、雪の世界となる。シール歩行・軽い下りと尾瀬沼までは無事にきたが、問題だったのは、ここから長蔵小屋までの「ほぼ」平坦なルートである。シールをつければ歩けたのだろうが、そこまでするほどの斜度でないだろう、ということで「シールをつけずに歩く」ことになった。が、これが、私にはうまくできない。板にうまく体重が乗っておらず、スケーティングで前に進まない!ゲレンデで下りの練習はある程度したのだが、要は「移動するための道具」としてスキーを使いこなせていない私は、何でもなし道で悪戦苦闘の末の小屋到着となった。

[2日目] 午後から天候の悪化が予想された為、小屋提供の朝食をやめて、代わりに前夜のうちにつくってもらったおにぎりを食べて、AM5:00すぎに出発。小屋の他のお客はみなさんまだ寝ているようで、燧ヶ岳の登頂をめざすのは我々だけのようだ。最初はなだらかな登りであったが、序々に急になる。一番の斜面は、幅も狭く、前回の安達太良よりも私にはかなり急に感じた。そこでスリップしてしまった私は、転倒して木に当たって止まり、岩本リーダーの助けでなんとか登る。ううむ、登りで転んでしまうとは。。。

さらに進んだ頂上直下は岩稜帯で雪はついておらず、スキーはかついで、10:30過ぎに晴れて登頂。なんとか天候はもってくれて、これから滑って降りる斜面がずっと見渡せる。私は登りで結構苦労

したので、おおいに達成感あり!である。頂上は逆側(御池)から登ってきた人たちで一杯だった。一休みして11:30滑降開始。安達太良では下りはいささか消化不良気味だったが、ここ燧ヶ岳ではたつぷりと滑れた。もっとも、滑降技術の未熟な私は、「下りを満喫」というわけにはいかなかったが。。。

今回のスキー山行を通じて感じたのは、山スキーは滑降技術だけではないということ。スキー板を、「雪のフィールドを移動する為の道具」として、総合的に使いこなす技術が私はまだまだ未熟である、ということだ。滑降技術をはじめ、ゲレンデである程度練習可能なものもあろうが、実際にオフピステに出てみて、はじめて使える技術として身につくものもあるだろう。今回は岩本さん、宮下さんに随分いろいろお世話になった。私の山スキーはまだまだこれから、だと感じつつ、大いに学べた山行であった。

報告者 小松 清貴

△△△△△△△△△△△△△△△△

**自主山行  
小川山・ガマルート  
5月17日(土)**

**参加者**

横川秀樹・田口浩昭・山野昭人・  
山野美香(なんちゃってL)

計4名

**コース・行程の概略**

廻り目平キャンプ場7:00集合。  
スラブに慣れる為にガマルート2P目トップロープにて練習後ガマルート5P登攀  
1P目:省略  
2P目:クラック数m直登後右にバンドをトラバース(ここまではトップロープで練習した為省略)2P目核心部のスラブ右下より取り付く。  
かなり岩が立っていていつ滑るかドキド

キ。

3P目:目の前に迫りくる凹角、そっと手を伸ばすと岩が濡れていてヒヤリ。

4P目:5mほどのスラブ。中間に直径10cm位の穴があるも前後がノッペリで最後の乗っ越しも小柄な(又は足の短い)人にはツライ!?

5P目:かなりの高度感だが傾斜ゆるく鼻歌まじりの快適な登り&歩き

6P目:後から来た3名のパーティーは5P目で終了。わが隊はもちろん「ここまで来たら行くしかないでしょー」の勢いでトライ。わずか3m、されど3m。

**コースの核心・ポイント**

笛やロープによる合図を用いた登攀 改め、Y(実質リーダー)によるスラブ未経験・超初心者3名への攻略法伝授

数週間前に個人特訓済のYがトップロープをセットしがてら未熟者3人組に戸塚ヨットスクールよろしくスパルタ指導。下から見上げると斜面も緩そう・バンドも幅があって簡単そうと、楽勝ムードのお気楽3人組にYは「もっと真面目にやらんかいっ!」と今回の為にとご購入あそばした5個のキャメロットのうち特大のヤツを思いっきり投げつけそうになるが、1年前に滑って頬を強打したことが脳裏をかすめ震える唇を噛んで堪えて登攀続行。お次のTはスイスイとクラックを登りバンドに足を置いたとたん「ウォー!これがバンドっすか?足が乗らないー、ウァー!足が・・・足が・・・う、うごかないい〜」と大はしゃぎ。えっ?はしゃいでた訳じゃない?

ああ、大騒ぎね。もちろんYは余裕のニコニコ顔で「世の中そんなに甘くないぜ!」と捨て台詞。勝ち誇ったYの小鼻が広がっていたのは言うまでもない。さてお次は人のふりみてナントカの頭脳犯A人の登場。クラックまでは良かったが今まで経験した事のないスマアリングにお足がビククリ。「ギャー、あっ あっ 足の指がつったー」他のパーティーがいなくて良かったね、ホント・・・。  
しかし今回何が一番恐かったかって、ヤセ尾根でヤジロベエのように両手を広げて足早に通る過ぎる時

の引きつった自分の顔かな。あーオシリがムズムズした。

権兵衛チムニー(V)  
大根おろし(V)

以上のように、滞りなくガマルート完登したのでした。

報告者 山野 美香

△△△△△△△△△△△△△△△△

**講習山行**  
**三つ峠の岩場**  
**5月24日～25日**

**参加者**

報告者 横川 秀樹

講師⇒小林 SL⇒草野  
BU(バックアップ)⇒松本・向原  
本科⇒伊藤・田口・山野(昭)・山野(美)・横川  
シニア⇒茨木

△△△△△△△△△△△△△△△△

計10名

**天気**

曇り

**班編成**

小林班⇒伊藤、茨木、向原  
草野班⇒田口、横川  
松本班⇒山野(昭)、山野(美)  
※2日間とも、班ごとの行動

**登ったルート**

(草野班)

初日

草溝ルート(IV)  
一般ルート右(III)  
クーロアール(V)  
リーダーピッチ(IV)

二日目

直登カンテ下部(A2)  
中央カンテ(IV)

**コメント**

他の班も、ほとんど登ったルートは同じです。(初日は少し違うかと思います)

リードした部分は、班(人)によっても違いますが、田口さんはリーダーピッチを、私は一般ルート右と中央カンテの斜上へクラック部分。伊藤さんは、権兵衛チムニーをリードしたとのこと。なかなかやりますね!

来月の自主が、楽しみになってきました。

**投稿**

**C-UPコラム『新人クライマーのひとりごと』**  
**第7回**  
**本科生のオススメ本第二弾なのだ!**

■2万5000分の1地区の読み方/平塚晶人(小学館)

この本を読まずして、ルートファインディングは始まらない。重箱の隅をつつくような恐るべき地図読みの手法はリーダー必読。

■登山の運動生理学百科/山本正嘉(東京新聞)  
山に登るなら、これを読むべし。

■沢登りの本/岩崎元郎(白水社)  
沢に登るなら、これを読むべし。

■最新クライミング技術/菊地敏之(東京新聞)  
岩に登るなら、これを読むべし。新保講師はビレイの章に異論を唱えているが、本科生なら、まずは一読して自分なりに考えてみたい。

■新版 邂逅の山／手塚宗求(平凡社)

今月3日、白樺湖へ出張に行ったついでに霧ヶ峰の車山肩まで足を伸ばした。ああ、コロボックルヒュッテはここにあるんだ・・・と思いつつ中に入り高原牛乳を一杯飲む。そのときに買った一冊。手塚氏は昭和31年から小屋を守っている。その珠玉の随想集。

■山小屋の主人の炉端話／工藤隆雄(東京新聞)

36の山小屋の主人が語る話はどれも秀逸。事実は小説よりも奇なり。山小屋には様々なドラマがある。

■殺意の三面峡谷／太田蘭三(祥伝社)

「脱獄山脈」「誘拐山脈」とこの3作を読んでみたが沢の季節なのでこれを推薦。ミステリーとしては二流だが沢や登攀の描写はワクワクだ。

■遠き雪嶺／谷甲州(角川書店)

「白き峰の男」の谷甲州が、日本初の本格ヒマラヤ登山となった立教大のナンダコート登頂を淡々と描いた。熱い思いが静かに伝わってくる。

■処女峰アンナプルナ／モーリス・エルゾーグ(山と溪谷社)

人類初の8000m峰登頂の陰には、こんな苦難があったとは・・・。

■荒野へ／ジョン・クラカワー(集英社)

エヴェレストでの大量遭難を描いたクラカワーの「空へ」は有名だがあえてこちらを推す。アラスカで衰弱死した青年の足跡を追い、何故彼は荒野を目指したのかをルポ。我々が山を目指す理由も同時に考えさせられる。

■ヒト、山に登る／柏瀬祐之(白水社)

近代文明開化のきっかけはモンブラン登頂であった・・・、という独自の論や、人は何故山に登るのかといったやや哲学っぽい話が、興味深い内容。

■クマにあったらどうするか／姉崎等(木楽舎)

クマ研究家の22期A人氏におススメしたい。アイヌ最後の熊撃ちハンターが語るヒグマの全て。説

得力が違う。

■百名山の人 深田久弥伝／田澤拓也(TBS プリタニカ)

深田久弥の意外な人間像が浮かび上がる。日本百名山に関心があるなら是非読みたい。

■世界百名山I～III／白川義員(小学館)

現在、世界百名瀑を撮っている世界的(?)写真家白川義員の写真集。登ったこともない山の写真を、3冊も見るのは疲れる。一冊3万8000円と超高価。興味があれば、図書館で借りよう。(秀)

## 編集局から

6月号も、自主山行の記録で満杯です。5月24・25日の三峠講習報告は、ML(メーリングリスト)で流れた報告文章をそのまま掲載させて頂いたものです。山塾のホームページ(山行報告入力フォーム)から書き込まれた報告は、自動的にメールとして私のところに送信されるはずなのですが、失敗しているケースがありました。報告文章掲載が抜けていた場合にはご指摘ください。次号に掲載するようにします。最近講習山行の報告原稿依頼をほとんど出していないですが、カモシカ・目新しい沢・夏合宿などは依頼を出すつもりです。本科生のみなさまにはご協力よろしくお願ひいたします。

## アドレス

無名山塾

<http://www.sanjc.com>

Phone 03-3941-3481

Fax 03-3941-3482